

唾液腺腫瘍



イラスト/いかわ やすとし

唾液腺腫瘍は、唾液を作る耳下腺、顎下腺、舌下腺などの唾液腺に生じる。その多くが耳下腺と顎下腺に発生し、症状は耳の下や顎の下などの腫れやしこりが多い。治療は手術だが、耳下腺には顔の表情を担う顔面神経が通っているため、神経を損傷しないように腫瘍を切除する必要がある。多くは良性だが、年月の経過で悪性化する場合もある。そこで、放置せずに手術を行なうことが必要だ。

「唾液腺腫瘍の多くが良性ですが、良性腫瘍の中で一番発生頻度が高い多形腺腫は、長年放置すると悪性化することがわかってきます。また、腫瘍が大きくなればなるほど、悪性化する率が高まります。一刻を争うわけでは

ありませんが、発見したら2、3年のうちに手術することを勧めます」

治療は良性悪性に拘わらず、手術を行なう。発生頻度が高い耳下腺は、耳前から下方に

ありませんが、発見したら2、3年のうちに手術することを勧めます」

唾液腺腫瘍の診断は、医師による触診のほか、超音波やCT、MRIなどの画像検査を行なう。皮膚から注射針を刺して腫瘍細胞を採取し、顕微鏡下で観察する検査を実施することもある。

多形腺腫は、通常は片側だけに発生するが、ワルチン腫瘍では、両側に発生することもある。

「手術で難しいのは、顔面神経の存在です。神経を避けて腫瘍を取らなければならないので、顔面神経よりも深い場所にてきている腫瘍は、特に注意が必要です。腫瘍が取れても顔面麻痺の後遺症が残っては困るので、神経の枝をすべて確認するために、腫瘍の大ききよりも皮膚の切開が大きくなる必要があります」

（羽田院長）

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

（取材・構成／岩城レイ子）

唾液腺には、粘表皮がんや腺様嚢胞がん、多形腺腫由来がんなど悪性腫瘍もある。悪性度には幅があり、比較的発育の遅い低悪性から急激に大きくなったり、頸部リンパ節に転移を起こす高悪性の腫瘍もある。突然、腫れが大きくなる、顔が動かしにくくなる、痛みを生じるなどの症状がある場合、がんが疑われる。

低悪性のがんの中には、術前検査で良性と思われるいても手術後の病理検査で、がんと診断されるケースもある。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。



羽田 達正 はねだ
耳鼻咽喉科 院長

唾液腺には、粘表皮がんや腺様嚢胞がん、多形腺腫由来がんなど悪性腫瘍もある。悪性度には幅があり、比較的発育の遅い低悪性から急激に大きくなったり、頸部リンパ節に転移を起こす高悪性の腫瘍もある。突然、腫れが大きくなる、顔が動かしにくくなる、痛みを生じるなどの症状がある場合、がんが疑われる。

低悪性のがんの中には、術前検査で良性と思われるいても手術後の病理検査で、がんと診断されるケースもある。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

手術は全身麻酔で行ない、入院は1週間程度、抜糸後に退院となる。しこりや腫れを見つけたら、専門医の受診が欠かせない。

あなたを癒やす

安心伝身

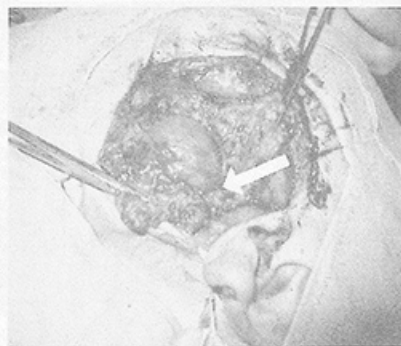
第457回

ふーん、ナルホド

良性でも年月とともに悪性化手術が必要な「唾液腺腫瘍」

唾液腺腫瘍は、唾液を作る耳下腺、顎下腺、舌下腺などの唾液腺に生じる。その多くが耳下腺と顎下腺に発生し、症状は耳の下や顎の下などの腫れやしこりが多い。治療は手術だが、耳下腺には顔の表情を担う顔面神経が通っているため、神経を損傷しないように腫瘍を切除する必要がある。多くは良性だが、年月の経過で悪性化する場合もある。そこで、放置せずに手術を行なうことが必要だ。

耳下腺腫瘍の画像



耳下腺にできた腫瘍（←部分）